

# 学力向上のための重点プラン【小学校】

# 新宿区立大久保小学校

## ■ 学校の共通目標

授業作り	重 点	習熟度別指導・チームティーチング・視覚的な教材提示などの指導体制や方法の工夫及びICT環境・タブレット端末の効果的な活用でわかる授業を展開すること、言葉による理解をさらに深めるために具体物操作や体験的活動を授業に積極的に取り入れることで、確かな学力を育成する。
環境作り		語彙力を豊かにし、主体的な学習力を高めるために、一人一冊の辞書を常に身近に置く。自学する力の伸長を目指して、朝の学習時間、家庭学習、タブレット端末等の活用を共通実践していく。

## ■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> <li>ひらがな、かたかな、漢字を正しい形で習得する必要がある。</li> <li>文節のまとまりとして音読できるよう、指導する必要がある。</li> <li>くり上がり、くり下がりのある計算が定着できるよう指導する必要がある。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①筆順、形に気を付けて書くように丁寧に指導。小テストで定着確認。</li> <li>②ノートの書き方をわかりやすく明示。</li> <li>③音読課題について、家庭と連携。</li> <li>④ブロックなど具体物の活用。</li> <li>⑤計算プリントやワーク、計算カードやデジタルドリルなどを活用。</li> </ol>
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> <li>書き順や読み方など、既習漢字の定着を図る必要がある。</li> <li>単語の意味を理解して音読できるよう、指導する必要がある。</li> <li>数量感覚に課題が見られる児童がいるので、繰り返し指導する必要がある。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ノートの状況の確認及び指導。</li> <li>②定期的に漢字小テストを実施。</li> <li>③音読集の活用。音読課題について家庭と連携。繰り返し音読を行い、積極的に褒めるよう声掛けの工夫。</li> <li>④音読テスト実施、各々の状況を把握し指導。</li> <li>⑤ブロックなど具体物の活用。</li> <li>⑥計算プリントやワーク、計算カードやデジタルドリルなどを活用。</li> </ol>
3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>新宿区学力定着度調査において国語では基礎学力は身につけており、全国平均を上回っている児童が多い。「聞く力や国語の活用力」の向上が必要である。</li> <li>算数は「たし算、ひき算、立式」については平均を上回っている。「算数の活用や水のかさ」の学習においては苦手としている児童が多いため、それらの分野の指導を充実する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「話す」ときは、相手に伝わるように話の中心を明確にさせる必要がある。「聞く」ときは、必要なことを記録したり質問したりしながら話し手が伝えたいことの内容を捉え、自分の考えをもつことが大事である。</li> <li>読書量を増やし、分からない語彙は辞書で引き活字に慣れる必要がある。</li> <li>量の単位と測定に関わる算数的活動、体験活動が必要である。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①発表機会を多く設定。全員にその機会を持たせるよう工夫</li> <li>②発表時や聞くときのきまりの徹底。</li> <li>③教室内外の整備。読書記録の活用。</li> <li>④日記など、書く作業の課題設定。</li> <li>⑤測定器具などの具体物の活用。</li> <li>⑥四則計算課題を繰り返し設定。</li> </ol>

4 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語、算数とも、教室全体では基礎的な学力は身につけている。特に「除法」「乗法」などは全国平均を上回っている。</li> <li>・国語の「書くこと」や「応用」、算数の「長さ」「測定」など特定の分野に関する指導を充実させる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」の充実のために、より多くの語彙を獲得する必要がある。</li> <li>・作文を自分で推敲できるようになるために、正しい表記やことばのつながりを理解する必要がある。</li> <li>・算数における学習では、数量や長さなどの実感をもてるように、体験活動を通じた学習が必要である。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①国語辞典を常時携帯させ、自発的な活用を促進。</li> <li>②既習内容のポイントを教室に掲示。</li> <li>③測定等体験活動の機会を積極的に設定。</li> </ol>
5 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の観点において、漢字力、及び「文学的な文章」の読解力を向上させるために、より多く語彙を獲得することが必要である。</li> <li>・算数の「小数・小数の計算」の単元では、目標値を上回った。「数」「式」「表やグラフ」単元の項目に苦手傾向が見られ、習得、及び定着を図っていくことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容の中心や、段落ごとの要点を整理しながら読むことが必要である。また読書や国語辞典、漢字辞典を活用するなどした語彙力の向上が必要である。</li> <li>・算数における学習では、四則計算や文章題の立式など、どれを使うか、なぜそれを使うか、なぜそうなるかを伝えることができるように理解する必要がある。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①読書本や辞典等の環境整備による、日常的な活用の促進。</li> <li>②自分の考えや意見を文章化する機会を積極的に設定。</li> <li>③ベーシックタイム算数の時間など、日々基礎的な計算練習に取り組む時間を積極的に設定。</li> <li>④デジタルドリルの活用。</li> </ol>
6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項の定着及び、活用する力の向上が必要である。</li> <li>・国語の観点では「知識・技能」、領域では「言葉・情報・言語文化」を正しく理解する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に手を挙げて発言する児童は多く、授業には意欲的に参加している。</li> <li>・語彙や漢字の理解が不十分であるため、物語文などの読解力を向上させる必要がある。</li> <li>・四則演算の技能を向上することが必要であるとともに、文章問題から演算決定ができるようにする必要がある。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①様々な場面で、言葉の力を高める活動を意図的に設定。</li> <li>②読書本や辞典等の環境整備による、日常的な活用の促進。</li> <li>③習熟度別算数の担当教諭と連携を図り、個に応じた指導を展開。</li> <li>④デジタルドリルの活用。</li> </ol>
特 別 支 援			